

一般財団法人市川市福祉公社

平成28年度第3回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成28年12月13日（火） 午前10時00分～午前11時00分
2. 場 所： ザタワーズイースト3F I-link ルーム2
3. 出席者 17 名

[委 員]

議長 藤城 誠一  
委員 四ツ屋 真由美  
委員 村尾 薫

以上 委員 3名

[オブザーバー]

市川市福祉部福祉政策課 2名  
高齢者サポートセンター国府台 1名  
高齢者サポートセンター曾谷 1名  
大学准教授 1名  
訪問介護事業所 2名  
居宅介護支援事業所 1名

以上 オブザーバー 8名

[事務局]

常務理事 下川 幸次  
事務局次長 今井 真希  
訪問介護課長 長尾 容子  
当該事業管理者 市川 奈津子  
計画作成責任者 館山 史陽、岩瀬 裕介

以上 事務局 6名

[欠 席]

委員 鈴木 靖成

以上 委員 1名

## 1.開会

### (1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

### (2) 委員等紹介

事務局より、委員等紹介を行う

## 2.事務局より資料の説明を行う

### (1) 相談受付状況、サービス提供等状況報告

### (2) 事例報告

## 3.質疑応答

### ●サービス提供等状況報告について

#### <藤城議長>

・平成25年12月～開始し、今年で3年目となる。

#### <四ツ屋委員>

・前回と比較すると、利用者数、訪問回数、認知症ケースが増えている。手間がかかり大変だと思う。

#### <村尾委員>

・利用件数は、増えて良かったが採算が取れないとの話から、介護度により訪問回数の目安があったりするのか。

#### <事務局>

・要介護1は1回程度、要介護2は1～2回程度、介護度に応じた回数を目途としているが、利用者にとっての必要性を考慮し、訪問回数を決定している。生活援助であれば、他のサービス事業所を利用して頂き、身体介護メインで考えている。

#### <村尾委員>

・ケアマネージャーにより連携が図りにくい事はあるのか。

#### <事務局>

・こだわりのある家事の部分の依頼は、いくら報酬が丸めといっても対応が難しい。

#### <藤城議長>

・実際、事業運営に当たり、公社での受け入れは、どこまで可能であるのか。今でも大変そうなのは判るが。

#### <事務局>

・相談があった時に「この時間であれば」と空き時間を提案している。しかし、朝・昼・夕の時間に依頼が集中する状況はある。

#### <藤城議長>

・要望があるのは、大体同じ時間帯だよね。この位の人数がちょうど良いのかもかもしれませんね。

#### <事務局>

・西部ヘルパーステーションも併設しているので、何とかなっているが、介護度が低下す

るとかなり厳しくその兼ね合いが難しい。

## ●事例報告

### <四ツ屋委員>

- ・(事例1について) 利用者の不安感からこちらのステーションにも連絡が入る。訪問を心待ちにしているのかなと感じている。ご本人も「市川市は良いね」と言われていた。
- ・(事例2について) 日常生活動作が低下すると楽になると思うが、訪問も多くなり、大変な事例だと思う。

### <村尾委員>

- ・ケアの統一に着目していかなければいけないが、地域等外部との関わりや事業所内での情報共有等、こういう点が難しいなと思う事は。

### <担当居宅介護支援事業所>

- ・担当ケアマネージャーが窓口になっているが、担当だけでの対応ではなく事業所として支えている。

### <村尾委員>

- ・カナミックで情報共有はどうか。

### <担当居宅介護支援事業所>

- ・今回、包括が動いてくれ、やっと息子さんが出てきた。少しずつ家族を巻き込む形になってきた。

### <村尾委員>

- ・皆の認識だったり、情報共有だったり、個人情報もあり、あまり広げ過ぎるわけにもいかないですね。

### <事務局>

- ・地域ケア会議時、民生委員も出席してくれた。担当地域関係者には、事あるごとに声をかけていけたらと考えている。コンビニ等から連絡をもらったり等、地域で支えるという事はこういうことかなと感じている。もちろん、個人情報に配慮しながら共有していく。

## ●オブザーバーの方々から

### <福祉政策課>

- ・施設からの事故報告で、離設事故が多くなってきている。地域で見守るという協力体制を得られることは重要である。
- ・地域の方や関係機関との関わりが大事であると思った。

### <高齢者サポートセンター国府台>

- ・以前、定期巡回をお願いしていたが、現場の声が一番大事で、色々とアドバイスをもらえ、他のサービスに移行することもできた。(事例2について) ケアマネージャーだけでは対応しきれないので、やはり家族を巻き込むことが大事である。

### <高齢者サポートセンター曾谷>

- ・どこでも認知症の事例が増えている。地域とのネットワーク作り、いかに家族を巻き込んでいい形に持って行くかですね。

### <訪問介護事業所>

- ・ご夫婦の事例でここまで大変なケースはなかった。以前、徘徊の利用者を見つかるまで

探して欲しいとケアマネージャーから言われ、対応する事は出来なかった。今のところ、これ程まで大変な事例はなく、やはり地域との連携や情報共有の必要性等、勉強になった。

- ・地域で必要な事業なのに実際は難しく、事業所は半減しており、千葉では市川のみとなってしまう。事業所は採算が合わない等、同じことで悩んでいる。中～重度の方で必要なサービスを見極めていきたい。やはり、朝、夕で希望時間が重なり、受けられないケースもある。

<大学准教授>

- ・地域の力をつけて行かないとダメだなと思った。利用者が増えたことは良かったが、採算が取れないのは厳しい。利用していない事業所へ事例を提示し、見える化することで利用に繋がるかもしれない。良い事業であるので、学生たちにも伝えていきたい。

#### 4.閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

次回介護医療連携推進会議予定 平成 29 年 3 月 14 日（火）

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上  
文責：市川市福祉公社  
訪問介護課 巡回係 館山